

周防大島町の概要



周防大島町のイニシャル「S」と「O」をモチーフに、4町が合併して一つになる様子をデザイン。瀬戸内海の青、山の緑、みかん色で「文化・自然・人」の融合を表し、「発展力・創造力」を象徴している。



町花 みかんの花



町木 みかんの木

山口県周防大島町

◎周防大島町の概要

平成16年10月1日、4つの町が「島を想う心はひとつ」を旨に、「周防大島町」が誕生しました。周防大島町は山口県の最東端部に位置し、豊かな自然環境に恵まれた人情あふれる町で、主な産業は農業、漁業、観光となっています。

過疎化、高齢化が進み、終戦後6万人を超えていた人口も、令和4年4月現在では1万5千人弱となっています。特に高齢化率は54.98パーセントと高い数値となっていますが、元気なお年よりの多い「長寿の島」、「生涯現役の島」として知られ、気候温暖でアクセスも便利な周防大島は移住希望者の多い町としても注目されています。交流人口を定住人口に繋げようと、全国で開催される移住フェアへの参加、移住体験ツアー「島時々半島ツアー」の開催、お試し住居、空家バンク等に取り組んでいます。

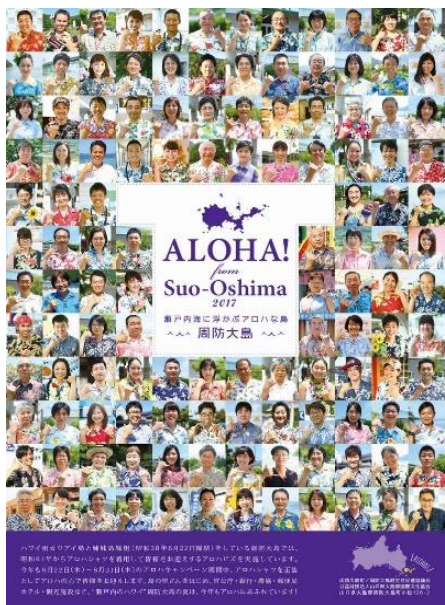


(ニホンアワサンゴ)

青く澄みわたる瀬戸内海の美しい海に囲まれた周防大島南沖には、日本最大級のニホンアワサンゴの群生地があり、すばらしい海中景観を見ることができます。

また、夏の海水浴はもちろん、季節を問わず恵まれた好漁場を求めて訪れる太公望の船釣りや磯釣りも盛んです。

山々が色づく秋にはみかん狩りや山歩きの観光客も訪れ、美しい自然を満喫できる「癒しの島」として、多くの方々に愛されています。



(アロハキャンペーン)

古くから海外に多くの移民を送り出してきた周防大島は、「移民の島」としても知られ、その縁でハワイ州カウアイ島と姉妹島縁組を結び、以来50年以上にわたり相互訪問などで交流を深めています。

昭和61年からアロハキャンペーンとして、国際交流の意識を高めるとともに、親しみのある明るい町づくりの一環として、アロハシャツの着用をすすめています。大島の夏はアロハシャツというイメージも定着してきました。

また夏場には、毎週土曜日にフラダンス（サタフラ）が各観光施設で催され、「瀬戸内のハワイ」として、島はハワイアンムードいっぱいです。

周防大島町は、目指す将来像を「人と自然が響きあう 笑顔あふれる安心のまち 周防大島」と定め、瀬戸内の穏やかな気候と恵まれた自然環境のもと、住んでいる誰もが楽しく充実した暮らしを実感することができる「私たちの たのしい すみたい いきたい島」と思えるにぎわいのあるまちづくりを目指しています。

◎位置・地勢・気候

「周防大島町」は、山口県東南部の瀬戸内海に位置し、北は広島県、南は愛媛県の島嶼部に隣接しており淡路島、小豆島に次ぐ瀬戸内海で3番目に大きな島です。大島瀬戸を渡る大島大橋によって本土と結ばれており、周囲には5つの有人島、25の無人島があります。



(嵩山山頂から見る瀬戸内海)

全域が瀬戸内海国立公園に指定され、山頂からの瀬戸内海をはじめとする美しい景色や自然に恵まれています。

全般的に山岳起伏の傾斜地で、島の中央部には600m級の山々が連なり、わずかな平野部を除けば急峻な山が海岸に迫る地形となっています。

気候は、四季を通じて比較的温暖で、平均気温も15度を超えています。雨が少なく、冬でも晴天の日が多く降雪・積雪もほとんどないため、特に高齢者にとって暮らしやすい地域となっています。

◎歴史

周防大島には、出土した土器などから、縄文時代中期にはすでに人が住んでいたことがわかります。「古事記」や「万葉集」にも周防大島は登場しており、平安時代の資料によると周防大島には屋代、美敷、務理の三郷がありました。

江戸時代、周防大島の人々の食糧不足を補ったのは、享保年間に栽培が始まった「さつまいも」で、江戸後期にかけて周防大島の人口は約4倍に増加しました。このため、明治になって多くの海外移民を輩出することになりました。

周防大島は明治以来、村町の統廃合を繰り返して、2004年（平成16年）10月1日に久賀町、大島町、東和町、橘町の4つの町が合併し、「周防大島町」が誕生しました。

◎産業

・農業

周防大島町はみかんの島として知られており、農業生産のほとんどは柑橘類で占められています。近年、農業従事者の高齢化、後継者不足、イノシシ等の有害鳥獣の増加などにより生産量が減少するなど、多くの課題を抱えています。



(みかんの収穫)

このため、「伝統ある大島かんきつ産地の再興に向けて」をスローガンに、「大島かんきつ産地継承実践プラン」を策定し、農業基盤整備と経営基盤の強化を図りながら高品質（ゆめほっぺ等）、低コスト、省力化生産に取り組んでいます。また、担い手支援センターを設置し、農地の集積や営農塾等の開催、定年帰農者を加えた新規就農者の受け入れを推進しています。

近年では、他作物の導入による複合経営の推進や農産物の加工、観光農業や新しい販売体制づくりなど、新たな事業展開を図っています。

・水産業

水産業は、瀬戸内海を漁場とする沿岸漁業が中心で、農業と同様高齢化、後継者不足、漁獲量の低迷が課題となっていますが、タイ・ハマチ、イリコとして加工されるイワシ漁などが盛んです。獲る漁業からつくり育てる漁業の転換を目指し、種苗放流や漁場の整備、水産加工業の育成、観光漁業の推進を図っています。また、ブルーツーリズムの推進による都市住民との交流を促進しています。



(イワシ漁)

・商工業

過疎化や町内外のショッピングセンターやスーパーへの消費者志向の増大により、地元商店での購買力の低下が大きな問題となっています。観光客の増大により主要産品を活用した特産品の開発などが求められている中、移住者が起業する事例も増えており、島の1次産業の産品を加工し販売まで手掛ける6次産業化への取組が盛んになっています。



(みかんの缶詰工場)

一方、農産物や海産物を中心とした加工産業も活発で、みかんや竹の子などの缶詰加工、カキなどの加工も盛んです。また島周辺で採れるひじき、わかめ、テングサやイリコなどの海産物の加工品も、町の主要な特産品となっています。

・観光

四方を海で囲まれた周防大島は、温暖な気候で美しい景観に恵まれており、島の随所に海水浴場、温泉、宿泊施設などが整備され、多くの観光客が訪れています。

また、戦時中、周防大島町の沖合いで爆沈した戦艦陸奥の記念館、日本ハワイ移民資料館、民俗学者・宮本常一先生の資料を集めた宮本常一記念館、歴史民俗資料館など多くの文化施設も整備され、作詞家・星野哲郎先生の記念館も平成19年にオープンしました。

町では、豊かな自然を活かしたアウトドア需要への対応を図るとともに、地域住民や民間団体と連携した体験型・滞在型の観光に積極的に取り組んでいます。



(片添ヶ浜海水浴場)

◎健康・福祉

心がかよい幸せ感じるまちづくりを目指して、住民一人ひとりが心身ともに健康で、生きる喜びを感じながらこの町で暮らしていけるよう、保健・医療・福祉の充実を図っています。

特に、町政の重点課題の一つである健康づくりについては、医療や介護事業への充実した施策の展開を図るとともに、町民が健康であり続けることができるよう生活習慣の見直しによる疾病予防、疾病の早期発見、早期治療のため、減塩運動の取組の拡充や健診受診率向上等に努めています。

また、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を図るため、子育て世代包括支援センターを設置し、安心して子育てができる環境整備にも努めています。

◎交通

昭和51年開通の大島大橋（平成8年に無料化）から伸びる基幹道路の国道437号は、ほぼ拡張整備が終わり、現在は、島の南側の道路整備を進めています。公共交通は、民間事業所を主体に一部町営バスを運行しています。

また、周防大島町の最東端の伊保田港には、松山へのフェリーが就航し、昭和58年に沖家室大橋が開通した沖家室島を除く4つの有人島には、町営の渡船を運航しています。



(道の駅)

◎生活環境・防災

上水道については、平成12年に広域水道が整備され、水道普及率はほぼ90%となっています。下水道（農業集落排水・漁業集落排水を含む）は、7地区で全部又は一部供用開始が行われ、処理区域人口は全人口の約42%となっており、現在、2地区で下水道の未普及対策事業を行っています。

3箇年計画で建設した、処理能力1日8tのリサイクルセンターと、埋立容量16,000 m³の最終処分場も、平成20年度から供用開始しています。

周防大島町は、東南海・南海地震防災対策推進地域に、山口県で唯一指定されています。このため、「安心のある町づくり」の一環として、防災情報をいち早く町民に知らせるための「防災行政無線」が平成21年9月に供用開始され、また、県による「山口県大島防災センター」も、久賀に整備されています。

◎教育・文化

本町の教育は、町民の熱意と地域の強い絆に支えられ、今日まで歩んできました。現状、少子高齢化に伴う学校や地域の課題解決のため、子どもも地域住民も住み慣れた土地で「いつまでも幸せに暮らしたい」という思いを共有し、学校・家庭・地域が一体となった社会総がかりでの教育を進めています。

社会教育については、4地区に整備されている総合センターや文化センターを核として住民の主体的な生涯学習活動の支援を行い、また利便性の高い図書館情報ネットワークなど社会教育施設の充実を図っています。さらに、地域で育まれた貴重な文化を後世に継承していくため、歴史民俗資料館、日本ハワイ移民資料館、宮本常一記念館などを拠点とし、文化財や歴史的遺産の保存、活用を図っています。

◎交流

東京、関西、広島地域などに、町出身者組織（町人会）が10団体あり、積極的に交流を続けています。また、昭和38年にはハワイ州カウアイ島と姉妹島縁組を行い、国際交流も活発に行っています。



（カウアイ市長を表敬訪問 H29）



（周防大島ゆかりのカウアイ市民との交流会）